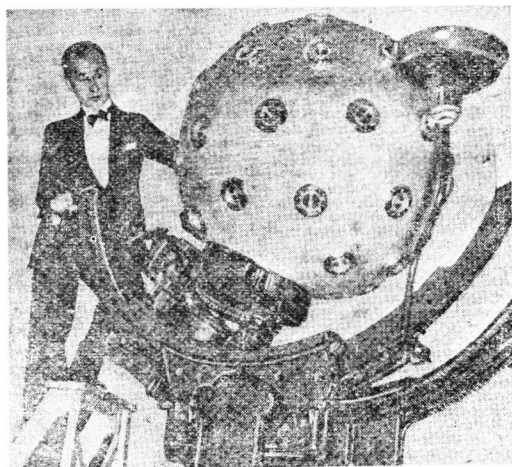


新型のプラネタリウム!!

“わが日本で自由に出ることが出来るものならば(特許権などのことを度外視して)、プラネタリウムは3萬圓程度で作られるものだ”とは、山本博士が屢々言つてゐられる所である。果して茲に極めて安價にして優秀なプラネタリウムが製作された。それは、米國マサチユセツ州スプリングフィールド市の博物館に於いて完成したもので、昨1937年11月2日、めでたく公開された。

此の新しいプラネタリウムは、上記の博物館の館長 Grace P. Johnson 夫人の奨励の下に、Frank D. Korkosz 氏と、其の弟 Stanley Korkosz 氏と、この二人が発明したもので、アルミニウム製の直径5呎(重さ僅々2500ポンド)の球を恒星天の映寫装置とし、機械全體の高さは7呎半である。アルミニウム球の中央には500ワットの電球があつて、全天に7150ヶの星が映寫され、星々には色や、チャツキ等がほんものの如く現はれる。星々の運行の模様などは全くツアイス製の



新プラネタリウムと發明者

プラネタリウムと同じである。しかも此の機械の價格は僅かに 12000 ドル(約40000圓)に過ぎない。之れと、普通のツアイス製のプラネタリウム(價格は約120000ドル即ち約400000圓)とを比べると殆んど10分の1である。このスプリングフィールドの新プラネタリウムのドームの直径は40呎(12米)である。故に此種のプラネタリウムは天文教育の設備としてひろく普及する可能性がある。

東京にもプラネタリウム 愈々東京にもプラネタリウムが出来ることになった。場所は東京日日新聞社の新築6階上、徑20米のドームと500平方米の大陳列室を山本博士監督下に設計々畫中、今秋公開の豫定。(花山急報283號より)